DOT (CHAR=レベルがネストする文字, INDEX=変数,VALUE=変数) ;
セクター名 あるいは 文字 ;

機能：

DOTは, DOTループの最初のステートメントです. インデックス値が一連の文字列（名前）である点以外は通常のDOループと似ています. これらの名前は, ループの間, シンボルドットが変数名に表れる度に順に置き換えられます. ドットは変数名のどこに置いても構いません.

使用法：

TSPにおけるDOTループの主たる使用法は, 多部門セクターにおいて同じステートメントグループが各セクターで繰り返される場合のデータ処理です. DOTコマンドの名前は, セクター名になります. それらは整数値であっても構いません. 対応する文字列として扱われます. もし数字の前のゼロを含めたければ, '01','02' 等の形を用いて下さい.

各々のDOTループは必ずENDDOTステートメントで終わります. DOTとENDDOTステートメントの間にあるステートメントの数には制限はありません. TSPはDOTステートメントにあるセクターの数だけ繰り返されます.

DOTループは入れ子(nest)することができ, 各変数名は一つ以上のドット(.)を含むことができます(例えば, VAR..). ドットに対して置き換えられれた名前は, DOTステートメントが表れる順に各ステートメントで一つとられます. 2番目の例を参照して下さい. もしループの数より名前のドットが少なければ, 最も内側のループが最初に用いられます.

ドットをつけた名前は, 変数名が拡張された後でTSPの名前の長さに対する制約と合っていなくてはいけません.

DOTプロシジャーは, LOAD ; コマンドでデータを入力するときには使えません. しかし, READコマンドでは使えます.

正しいドット付変数名は, A., . , .VAR, .D., AL.B となります.

正しくないドット付変数名は, .1, 2. (数字), そして .EQ. (論理演算子)です.

オプション：

CHAR= ネストしているDOTループで . と組み合わせて用いる特別の文字で, 期間を拡張するのに用いられるDOTステートメントを変更します. 通常は内側にループがある場合は外側のDOTループを表す単一の . を作るためだけに用いられます.

INDEX= DOTループの間で1,2,3...の値をとるスカラーの変数名です. これはDOTループとDOループを同時に持つようなものです.

VALUE= 数値的なDOTセクターの値を持つスカラーの変数名

例：

賃金変化率(DW), 失業率(U), 価格(P)のデータが, アメリカ合衆国(US), イギリス(UK), スウェーデン(SV), ドイツ(D)の４カ国に対してあると仮定します. このデータを作成したり入力したりするときに, DWUS,DWUK,DWSV,DWD,UUS,UUK, 等といった様な系列名を付けます. するとDOTループによって, ４カ国全てに付いて同一のTSPステートメントを容易に実行することができます. たとえば, 各系列を同じ年に対して正規化して価格の変化率を計算し, 次にDWを失業率と価格変化率に対して回帰し, 賃金方程式を計算するのに次のように用います.

```
DOT 1-4 ;
    NORMAL P.  72 100 ;
    GENR DP. = LOG(P./P.(-1)) ;
    OLSQ DW. C U. DP. ;
    FRML EQ. DW. = A+B*U.+G*DP.**RHO ;
    PARAM A B G RHO ;
    LSQ EQ. ;
ENDDOT ;
```

もし, 例えば食料, 住宅, エネルギー, 等の商品の価格と数量に対して同じ４カ国のデータを使って研究したければ, ２重ドットの形を使うことができます：

```
DOT FOOD HOUS OIL ;
    DOT 1-4 ;
        GENR S.. = P..*Q.. ;
    ENDDOT ;
    PRINT S.1-S.4 ;
ENDDOT ;
```

この例は, SFOOD1,SFOOD2,SFOOD3,SFOOD4,SHOUS1-SHOUS4,SOIL1-SOIL4という名前の12個の系列をこの順に作成します. 各系列は, 対応する価格と数量系列の積に等しくなっています. 外側のDOTループでは, 各商品に対して全ての国の系列の表がプリントされます. はめ込まれたドットの使用法に注意して下さい.

次は番号をつけたセクターの例です：

```
DOT(VALUE=J) 0-9 ;
    SELECT COUNTRY=J ; OLSQ FISH C X. ; FIT = @FIT ;
ENDDOT ;
SELECT 1; PRINT COUNTRY FIT ;
```

この例は, 10カ国のそれぞれに別々の標本で, 同じ従属変数FISHをCとXに回帰する例です(PANEL(BYID, ID=COUNTRY) FISH C X; と同じです). 当てはめられた値は保存され, 一緒にプリントされます.

これはもう一つの例で, 数値的な文字列と二重ドットの使用例です.

```
DOT ‘01’ ‘02’ ‘11’;
  DOT FOOD HOUSE OIL;
      GENR S.. = P. * Q.. ;
  ENDDOT;
ENDDOT;
```

この場合には, 変数S01FOOD,S10FOOD,...,S01HOUSE, 等は系列Q01FOOD,Q10FOOD, 等の各セットに対して, 単一の価格指数PFOOD,PHOUSE,POILを用いて作成された. P変数に対して単一のドットを用いることに注意して下さい.

この例はVARSという変数リストをとり, それぞれをリストの他の変数に次々と回帰する. INDEXとCHARオプションを用いることに注意.

```
LIST VARS X Y Z W;
DOT(INDEX=I,CHAR=%) VARS;
  DOT(INDEX=J) VARS;
      IF I >=J; THEN; OLSQ .% C .;
  ENDDOT;
ENDDOT;
```